

【早産率、低出生体重児率、先天奇形・先天異常発生率】

早産率、低出生体重児率、先天奇形・先天異常発生率は全国調査の値や一般的な水準と変わりませんでした。

	早産率		低出生体重児率		先天奇形・先天異常発生率	
	本調査	全国調査	本調査	全国調査	本調査	一般的な水準
平成 23 年度	4.8	5.7	8.9	9.6	2.85	3 ~ 5 (2014 産科診療 ガイドラインより)
平成 24 年度	5.7	5.7	9.6	9.6	2.39	
平成 25 年度	5.4	5.8	9.9	9.6	2.35	
平成 26 年度	5.4	5.7	10.1	9.5	2.30	
平成 27 年度	5.8	5.6	9.8	9.5	2.24	
平成 28 年度	5.4	5.6	9.5	9.4	2.55	
平成 29 年度 <sup>*</sup>	5.2	—	8.9	—	2.47	

全国調査：人口動態統計における年単位の割合

※暫定値（平成30年6月30日現在）

早産：妊娠 22 週から 37 週未満で生まれた赤ちゃん  
低出生体重児：2500g よりも小さく生まれた赤ちゃん

第32回福島県「県民健康調査」検討委員会資料より作成

福島県内で妊娠・出産される方は震災後の平成24年度に減少しましたが、平成25年度は一時的に回復しました。その後は全国と同様に減少傾向を示しています。

また、放射線等の新生児への影響が心配されましたが、震災後、福島県内における早産率、低出生体重児率、先天奇形・先天異常発生率等は、全国的に人口動態統計や一般的に報告されているデータとは差がないことが分かっています。

本資料への収録日：平成27年 3月31日

改訂日：平成31年 3月31日